

～～第8495回～～

白馬岳

～H30. 8. 3-6～

夏山で日本百名山・花の百名山として人気の白馬岳へ大雪渓を登り、白馬三山を縦走、白馬鑓温泉に入る盛り沢山のコースを4人で周回した。3日は袋井市内で参加者を拾いながら、新東名高速森インターから東海環状・中央道・長野道を走り安曇野インターを降りて白馬村に着き、ペンションに素泊りで前泊した。

4日は近くの八方第二駐車場に移動し予約したタクシーに乗って猿倉に着く。ストレッチして出発した。左に鑓温泉への分岐を見て、紫陽花の多い登山路を進んで白馬尻小屋に着いた。朝食を取り、アイゼンを履いていよいよ大雪渓に取り付く。中央の直登コースに前の登山者が残した付けたステップに足を置きながら、蟻の行列状態で登る。雪渓から一転して秋道と呼ばれるごつごつした岩の登山路に入り、岩屋跡(葱平)、小雪渓の縁を通過した。やがてお花畑の木道になるが、ずっと登りで日影が無く、時折沢の雪渓から吹き降ろす風が爽快だった。白馬岳頂上宿舎を右折して稜線に乗り、白馬山荘を正面に見ながらに到着した。1000人が宿泊可能な巨大な山小屋であるが、暗くなるまで続々登山者が入り満員だった。夕食後、20:30消灯した。

5日は早く小屋を出て、白馬山頂でご来光を待った。ガスが上がり日本海からの風も強かったが、幸い雲の合間に昇る太陽を見ることが出来た。小屋に戻って朝食を取り、稜線を南下した。強風が雲を飛ばすため、振り返ると北に鋭い白馬岳のピークと旭岳の穏やかな山塊、西に富山県側の黒部渓谷を挟んで剣岳、東に対照的な長野県側のアルペンのや山容や戸隠山を眺めることが出来た。足元に咲くリンドウ等の写真を撮りながら、杓子岳と白馬鑓ヶ岳に登り、白馬三山をクリアした。唐松岳・鹿島槍岳を正面に見ながら白馬鑓温泉の分岐を下ると一気に風が止み、真夏に戻った。ガレ場を下り大出原で休憩すると、広いお花畑と雪渓の先に登る時は平坦に見えた白馬鑓山頂が、手前の尖った岩で鑓に見え、確かに名は体を表すと納得した。下ると「ストック禁止」の表示と岩場に鎖が4カ所あり、錆びたハーケンとびかびかのチェーンの組合せに遭難箇所か?と思わず力が入った。雪渓の横に下り、更に進んで白馬鑓温泉小屋に着いた。一服して、源泉かけ流し硫黄臭の透明なお湯に浸かる。湯船は広く清潔だが、お湯が熱く日差しも強いため早々に切り上げ、小屋横のベンチで昼寝した。夏期だけ組立てる150人規模の施設だが、夕食のハヤシライスが美味しく山小屋の雰囲気は良い。

6日は5:00に朝食を取り、雪渓とキンポウゲのお花畑の間を下山した。山腹の稜線と谷を抜ける巻道で、途中2ヶ所に雪渓も残っていた。1ヶ所は登山路の斜面が崩れ、一旦上流側に掛け直された橋を渡り、はしごで雪渓に登ってから下るスリリングなコースになっていた。中間点の小日向のコルまで登り下りを繰り返すタフな道で、ここからは九十九折の後、林の中をひたすら下って白馬岳登山路と合流し猿倉に戻った。客待ちしていたタクシーで八方駐車場に移動した。横の八方の湯で汗を流して、地元のそば屋

に寄った。帰路は長野道・中央道・中部縦貫道・R52・新東名を使用して袋井に戻った。全日程を通じて好天に恵まれ景色が良く、花の百名山らしく花の種類・量ともに多く、山中の温泉で汗を流して充実した山行だった。ただし今年的气候のせいか、折角 3000 m級の山に登ったにも関わらず、ひたすら暑かった。

参加者：4名

天候：快晴

地図：白馬岳

コースタイム：袋井＝新東名高速森 IC1500＝東海環状・中央道・長野道＝安曇野 IC1800＝白馬村ペンション(泊)1940-450＝八方第二駐車場 500＝猿倉 520…白馬尻小屋 650…岩屋跡 1000…小雪溪…白馬岳頂上宿舎 1300…白馬山荘(泊)1320-420…山頂 440-510…白馬山荘 630…杓子岳 830…白馬鑓ヶ岳 930…白馬鑓温泉分岐 1010…大出原 1120…白馬鑓温泉小屋(泊)1230-545…雪溪 640…小日向のコル 815…分岐点 1030…猿倉 1050＝八方第二駐車場・八方の湯 1120-50＝安曇野 IC1440＝長野道・中央道・中部縦貫道・R52・新東名＝袋井 1730

記録：袋井支部 K2